

# 国史跡高宮廃寺跡

## 内容確認発掘調査概要Ⅲ



寝屋川市教育委員会

平成 28 年 3 月

# 序

寝屋川市の高宮 2 丁目には延喜式内社の大杜御祖神社（おおもりみおやじんじゃ）が鎮座しています。境内には古くから古瓦や礎石が散在し、東塔跡の土壇と心礎があることから古代寺院の存在が知られていました。この土壇に破壊の危機が生じたため、昭和 28 年に大阪府教育委員会が東塔跡の発掘調査を行いました。また、昭和 54 年には境内地北側の私有地において宅地造成の計画が持ち上がり、再び遺跡の破壊が懸念されたことから寝屋川市教育委員会による寺域全体の範囲確認調査が行われ、その成果を踏まえて、翌 55 年に国史跡の指定を受けることとなりました。私有地については、その後公有地化が行われ、2 度の破壊の危機を免れた高宮廃寺跡は史跡指定後、現状での保存が図られています。

本市では高宮廃寺跡の活用に向けて、平成 25 年度より過去の調査地の再発掘を含めた内容確認発掘調査を実施しております。調査にあたり、ご協力をいただいた大杜御祖神社、大字高宮財産管理委員会、地元自治会及びご指導・ご助言をいただいた文化庁、大阪府教育委員会、寝屋川市文化財保護審議会、調査指導者の各先生をはじめ関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも本市の文化財保護行政に一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

寝屋川市教育委員会  
教育長 高 須 郁 夫

# 例言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が、平成 27 年度国庫補助（総額 7,984,400 円、補助率：国 1 / 2）を得て実施した寝屋川市高宮 2 丁目所在の国史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、平成 27 年 9 月 24 日に着手し、平成 28 年 3 月 31 日に完了した。
3. 調査の実施にあたっては、文化庁・大阪府教育委員会・寝屋川市文化財保護審議会及び網伸也（近畿大学）・鷲森浩幸（帝塚山大学）・箱崎和久（奈良文化財研究所）・菱田哲郎（京都府立大学）の指導を得た。
4. 調査の過程で、下記の方々に有益なご教示をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（五十音順・敬称略）  
青木敬 井西貴子 大脇潔 奥田尚 小田裕樹 塩山則之 寺前めぐみ  
中西裕見子 仲林篤司 広瀬雅信 森屋直樹 山下信一郎
5. 発掘調査及び本書の執筆と編集は寝屋川市教育委員会事務局社会教育部文化スポーツ振興課丸山香代が担当した。

## はじめに

国史跡高宮廃寺跡は、寝屋川市の南東部、生駒山地から南西に派生する香里丘陵（標高約 30 ～ 50m）の南端に立地している。当廃寺の周辺には古墳時代後期から飛鳥時代にかけての集落（高宮遺跡）が広がっており、高宮廃寺を創建した古代氏族の居住域と推定される。

史跡指定地は、大部分が延喜式内社の大杜御祖神社の境内地である。現在、西塔跡と推定されている位置に江戸時代に建てられた社殿が鎮座しており、旧宮地伝承地が神社の北東約 50m に残されている。



図1 寝屋川市の位置



図2 国史跡高宮廃寺の位置

## これまでの調査

高宮廃寺跡の最初の調査は、昭和 28 (1953) 年に大阪府教育委員会により行われた。境内地に残されている土壇が土取りにより破壊の危機に瀕したため、遺跡全体の地形測量と東塔跡の発掘調査が実施された。この調査では出土した瓦から寺院の創建が白鳳期と判明し、さらに寺院の伽藍そうとうしきがらんはいちが双塔式伽藍配置であると推定された。<sup>1</sup>

昭和 54 年には、寝屋川市教育委員会が寺域全体の範囲確認調査を実施し、主要な伽藍の建物跡を確認した。この時確認された遺構は、回廊の北西隅と北回廊・東回廊の一部、金堂基壇<sup>2</sup>、講

1 藤沢一夫『大阪府の文化財』「高宮廃寺の発掘調査」 1962年8月 大阪府教育委員会

2 基壇：周辺の地盤より高く土を盛り上げて建物の基礎としたもの。

堂基壇、中門の一部である。<sup>3</sup> この調査成果を受け、翌年に国指定史跡となった。

平成 25 年度から寝屋川市教育委員会では高宮廃寺跡の管理活用計画の策定に向けて、過去の調査地の再発掘を含めた内容確認発掘調査を行っている。

平成 25 年度調査では、金堂跡の解明を目的に旧調査区の再調査と新たな調査区を設けた。それにより、金堂の基壇を築造する際の版築状況や建物規模が判明した。<sup>4</sup>

平成 26 年度調査では、中門跡、東回廊跡、史跡指定地南側に調査区を設けた。中門跡では基壇の一部を検出したが、規模の解明まで至らなかった。東回廊跡では検出した土壇の幅より、塀跡であることが判明した。<sup>5</sup>

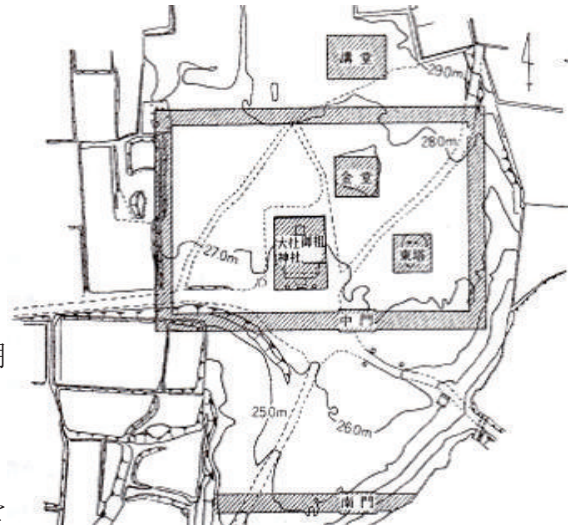


図3 伽藍配置図

(『寝屋川市史』第一巻より)

## 平成 27 年度の調査成果

今年度は中門跡（1ヶ所）・回廊跡（3ヶ所）・東塔跡（4ヶ所）・史跡西部分（4ヶ所）の内  
容解明に向け、計 12 ヶ所の調査区を設定した（4・5 ページ 図 4）。

### 1 中門調査区（写真 1・2）

中門跡の規模を解明するために、平成 26 年度の調査で検出した基壇の一部から東側に調査区を設けた。

調査の結果、東側は後世のかくらん攪乱による削平を受けており東西規模を確定することはできなかった。なお、検出した基壇の南側も同じく攪乱による削平を受けており、南北規模も不明である。

調査区の東側では東西 51 cm × 南北 60 cm 以上の方形の掘り方を持つ柱穴を 2 基検出した。



写真 1 中門調査区全景（西より）

※手前の高まりが基壇の一部

3 『高宮廃寺発掘調査概要報告』寝屋川市文化財資料 2 1980 年 3 月 寝屋川市教育委員会

4 版築：強固な基礎を作るため、種類の異なる土を交互に突き固める作業。

5 『国史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査概要 I』2014 年 3 月 寝屋川市教育委員会

6 『国史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査概要 II』2015 年 3 月 寝屋川市教育委員会

7 地山：遺物を含む包含層や人為的な盛土でなく、その土地の基盤となっている土層。

8 心礎：塔の心柱の礎石。

9 掘込地業：建物もしくは基壇の地下部分を掘り下げ、突き固めながら埋め戻す地盤改良。

## 2 回廊調査区 (写真3～5)

回廊調査区は、これまでの調査で検出した東<sup>7</sup>築地塀及び中門基壇をもとに設定した南東のコーナー部分(回廊1)、南回廊部分(回廊2)、昭和54年に検出された回廊北西のコーナー部分(回廊3)の3か所で調査を行った。

回廊1では平成26年度に検出した東築地塀跡の続きと西に向かって延びる土壇が検出された。

東築地塀跡は幅が約3m、残存高30～50cmで地山上に赤褐色の盛土を行っている。西へ延びる土壇の幅は約5mで南回廊の基壇と考えられる。上面は削平されており残存高は20～30cmである。

回廊2は回廊1から続く南回廊基壇の確認を目的としたが、後世の攪乱のため削平されており確認できなかった。

回廊3の再調査では、回廊の基壇とされていた土壇は後世の攪乱による高まりが残ったものであり、回廊北西隅ではないことが明らかとなった。そのため、西の区画施設の位置を再検討することとなった。



写真2 中門調査区の柱穴跡 (南西より)



写真3 回廊1全景 (北より)



写真4 回廊1全景 (南より)



写真5 回廊3全景 (北西より)

## 3 東塔調査区 (写真6～9)

東塔跡では現存している心礎<sup>8</sup>を中心に基壇を南北に貫く調査区(東塔1)と基壇北東隅(東塔2)、基壇南西隅(東塔3)、心礎西側(東塔4)の4か所を設定した。

東塔基壇の西辺、南辺、北辺を確認し、基壇の規模が一辺10.32mであることが分かった。残存高は版築土上面までで約1m、心礎上面までで約1.3mである。基壇は堀込<sup>9</sup>地業を行わず、地山上に版築を行い築成している。心礎は版築により基壇を築成した後、据え付けのための穴を掘り

Y=-33160

Y=-33150

Y=-33130

Y=-33120

Y=-33110

Y=-33100

Y=-33090

Y=-33080

Y=-33070

Y=-33060

Y=-33050

X=-137910

X=-137920

X=-137930

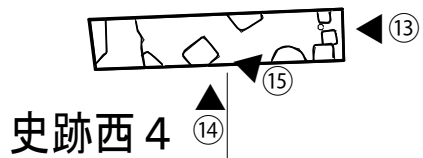
X=-137940

X=-137950

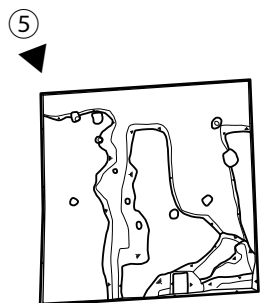
X=-137960

X=-137970

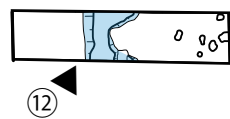
X=-137980



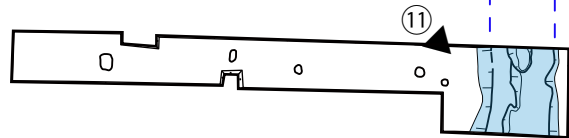
史跡西4



回廊3



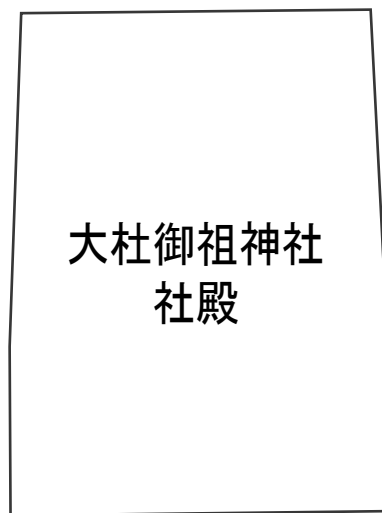
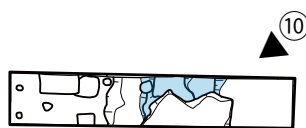
史跡西3



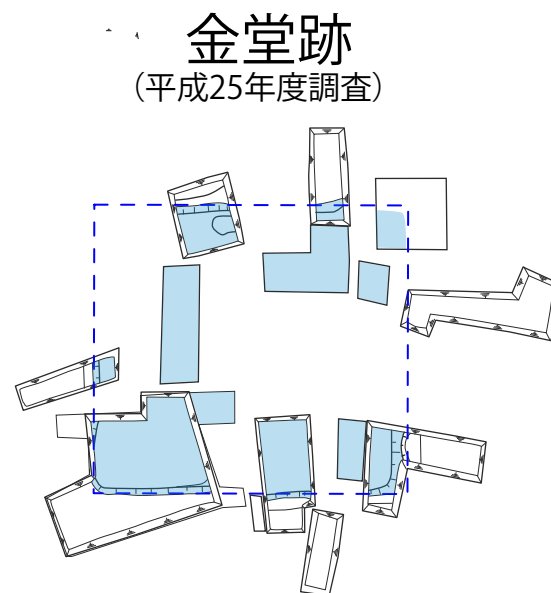
史跡西2



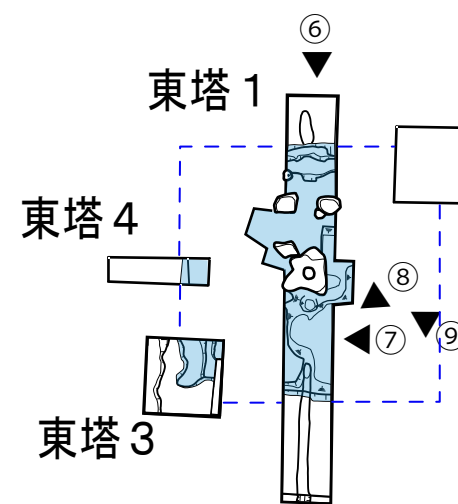
史跡西1



大杜御祖神社  
社殿



金堂跡  
(平成25年度調査)



東塔1

東塔2

東塔4

東塔3

①

中門

回廊2

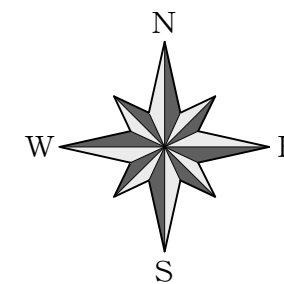
回廊1

(平成25年度調査)

(平成26年度調査)

※①②・・・写真番号に対応  
 ※建物基礎部を検出した部分には着色

図4 高宮廃寺跡調査区位置図(S=1/300)】



据え付けている状況が確認できた。版築土内から瓦が出土することから、高宮廃寺の主要伽藍の造営は金堂から塔の順序であったと考えられる。基壇上面に残されている心礎、北西の四天柱礎、北側の側柱の礎石<sup>11</sup> 2基は基壇築成当時の状態を保っている。四天柱礎と側柱の柱間及び側柱の柱間はともに 1.8m である。

東塔 1 では心礎の南東側で昭和 28 年の調査の契機となった土採りの痕跡が明瞭に残っていた。



写真 6 東塔 1 全景（北より）



写真 7 東塔 1 基壇の版築状況（東より）



写真 8 東塔 1 土採りの痕跡



写真 9 東塔 1 基壇上面の礎石（南東より）

#### 4 史跡西調査区（写真 10～15）

史跡西 1 から 3 では西築地塀の基底部を検出した。検出幅は両端の分かる史跡西 2 で 3 m、東側が攪乱による破壊を受けている史跡西 3 で 2.2 m である。なお史跡 1 では木の根による攪乱のため幅は不明である。金堂の中軸線から史跡西 2 で検出した築地塀の西端までは 32 m、平成 26 年度に検出した東築地塀の東端までは 32.2 m で、ほぼ等距離となる。

史跡西 4 では史跡指定地の西に接する畑地等の調査（高宮遺跡）で見ついている掘立柱建物跡と同じ方位を持つ大型の方形の柱穴 3 基と南北方向軸を持った柱穴 4 基を検出した。前者の柱穴（写真 14）の深さは約 5 cm しかないため、上面が削平を受けていることが分かる。

<sup>10</sup> してんちゅうそ  
四天柱礎：心礎の四方の周りに方形に各隅角に配置された四天柱を支える礎石。  
<sup>11</sup> がわぼしら  
側柱：古代の木造建築で、もっとも外回りに立つ柱。



写真10 史跡西1 西築地塀跡（北東より）



写真11 史跡西2 西築地塀跡（西より）



写真12 史跡西3 西築地塀跡（南西より）



写真13 史跡西4 全景  
（東より）



写真14 史跡西4で検出した柱穴（南より）



写真15 史跡西4 柱穴の掘削状況（東より）



## ● 出土遺物について

調査において出土した遺物の量はコンテナ数（縦 59、横 38、深さ 14 cm）で合計 149 箱であった。（中門調査区 23 箱、回廊調査区 16 箱、東塔調査区 73 箱、史跡西調査区 37 箱）

遺物の大半が瓦であり、一部須恵器片や土師器片が確認できた。出土した遺物については現在整理中のため具体的な点数は記載しないが、現在確認できた軒瓦、道具瓦の種類のみを紹介する。

### ○素弁八葉蓮華文軒丸瓦（写真 16）

八弁の素弁である。外縁は素縁で、蓮弁は中央が膨らみ弁端に切り込みを持つ。胎土は密で、色調は褐灰色、焼成は硬質である。

### ○複弁八葉蓮華文軒丸瓦（写真 17）

全体的に摩耗が著しく、詳細は不明である。胎土は砂を少量含み、色調は灰褐色土、焼成は軟質である。

### ○複弁四葉蓮華文軒丸瓦（写真 18）

主要伽藍各所から出土している軒丸瓦で、周縁に線鋸齒文、外区には珠文を配する。胎土は密で、色調は褐灰色と暗灰色のものがある。焼成はやや軟質である。

### ○均整唐草文軒平瓦（写真 19）

複弁四葉蓮華文軒丸瓦と同じく、主要伽藍各所から出土する軒平瓦である。周縁、外区に文様は見られず、顎形態は曲線顎である。胎土は砂を少量含み、色調は褐灰色もしくは灰白色を呈し、焼成はやや軟質である。

### ○鴟尾片（写真 20）

中門調査区より 2 点出土した。胎土や焼成より平成 26 年度に出土したものと同一のものと考えられる。

鴟尾は瓦葺建物の大棟両端の装飾品。



写真 16 素弁八葉蓮華文軒丸瓦



写真 17 複弁八葉蓮華文軒丸瓦



写真 18 複弁四葉蓮華文軒丸瓦



写真 19 均整唐草文軒平瓦



写真 20 鴟尾

## まとめ

これまで高宮廃寺跡の伽藍配置は金堂の南北中軸線に対し、東側より西側が広いと考えられていた。(2ページ 図3)しかし今回の調査で、金堂の中軸線に対し東塀と等距離の位置で新たに西築地塀跡を検出したため、東西対称の伽藍規模であることが分かった。また南回廊跡も明らかになり、中心伽藍の東面、西面、南面を確定させることができた。

来年度は講堂跡を中心とした北側の調査を予定しており、史跡北側の解明を行い、高宮廃寺の全体像を考えていきたい。

## 報告書抄録

ふりがな	くにしせきたかみやはいじあと ないようかくにんはつつちょうさがいよう さん							
書名	国史跡高宮廃寺跡 内容確認発掘調査概要 III							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	丸山香代							
編集機関	寝屋川市教育委員会 文化スポーツ振興課							
所在地	〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号							
発行年月日	2016年3月							
ふりなが 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くにしせき 国史跡 たかみやはいじあと 高宮廃寺跡	おおさかふ 大阪府 ねやがわし 寝屋川市 たかみやにちょうめ 高宮二丁目 おおもりみおや (大杜御祖 じんじゃけいだい 神社境内)			34° 45' 20"	135° 38' 18"	2015年 9月～ 2016年 3月	364.7	内容確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
国史跡 高宮廃寺跡	寺院跡	白鳳時代～平安時代		東築地塀跡 西築地塀跡 東塔跡基壇		瓦、須恵器 土師器		